

2. 学生意識調査の4年間とその成果について

青山学院大学副学長
長谷川 信



調査実施概要（データの蓄積について）

年度	1年生	2年生	3年生	4年生
2008	1学部 【国】			
2009	4学部 【国】【総】【経】【社】	1学部 【社情】		
2010	全学部	4学部 【国】【総】【経】【社】		
2011	全学部	全学部	全学部	全学部
2012	全学部	全学部	全学部	全学部
2013	全学部	全学部	全学部	全学部

国・・・国際政治経済学部
 経・・・経済学部
 総・・・総合文化政策学部
 社・・・社会情報学部

■ 2010年度より全学的に実施

■ 2013年度4年生の意識調査実施で1年～4年生までつながる

● 1年次生(4月実施)

(学生にとって)

学生生活の目標設定、学びと進路のつながりを意識するきっかけとする。

(大学にとって)

入学時の意識、期待感を把握し、学生の意識の変化を測る起点のデータとする。

● 2年次生(4月実施)

(学生にとって)

学生生活の振り返りをもとに、2年次以降の目標を再設定するきっかけとする。

(大学にとって)

1年間の学生生活の満足度・成長感を把握し、教育改善・学生生活の充実につなげる。

● 3年次生(4月実施)

(学生にとって)

自己分析の結果にもとづいて、進路就職に結びつく、自己PRのポイントを明確にする。

(大学にとって)

学生生活の満足度・成長感と学生が身につけた能力を把握し、教育改善・学生生活の充実につなげる。

● 4年次生(3月実施)

(大学にとって)

4年間の学生生活の満足度・成長感、学生が身につけた能力、本学の教育への評価などを総合的に把握し、教育改善・学生生活の充実につなげる。

1年

【テーマ】低学年キャリアデザイン：学生生活の目標設定・学びと進路のつながり



▲自分の強み、弱みを客観的に把握できます

▲ワークで自己理解が深まります



＜1年生受講者感想例＞

- 自分が就職するにあたって、どういうことを考えて大学生活を過ごしたらいいのかを考えるきっかけになった。これから大学生活をどう過ごせばいいか、就職するためには何が必要とされるのかなどを知ることができた。
- おもしろく、真剣に勉強できた。とても参考になったうえ、不安感が拭われ、頑張ろうと前向きになれた。自分のことも見えてきた！



2年

【テーマ】低学年キャリアデザイン：学生生活の振り返りと目標の再設定



▲この1年の成長感や満足度がわかります

▲1年次に受検していれば項目の変化がわかります



＜2年生受講者感想例＞

- 私は今年からアクティブに活動しているのですが、講義の中で「2年生の間にどれだけ経験しているかが大事」と言われたので、自分の今やっていることは間違いじゃないんだと勇気をもらいました。勉強と活動を両立させていくためにスケジュール管理をしてきたいと思います。それは将来、仕事と家庭の両立につながると思います。
- 大学2年生の今が一番、自分のしたいことや興味のある事に挑戦できる時間がたくさんあるんだと改めて気づきました。楽しいことばかりじゃなくて、自分の苦手な事などにもちよつとの勇気を出して、どんどん参加していこうと思います。人見知りを克服したい

3年

【テーマ】自己分析と就職活動：自己PRと志望動機の作成



▲3ステップで、自己PR・志望動機を具体的なかつ論理的にまとめることができます。

▲今の活動状況から、すべきことを明確にします

▲診断結果から自己PRや志望動機を作成できます



＜3年生受講者感想例＞

- 自分の中では就職への意識はかなりできていると思っていたが、やるべきことはまだまだあると素直に感じた。少しずつでもいいので今からできることを進めていきたい。
- 改めて自分の将来について考えさせられた。今までいろいろと企業にアピールできるようなこと(東南アジアボランティア旅行など)を大学時代にしておいてよかったと思った。これからも人と差別化できるような社会経験を積んでいきたい。

学生授業アンケート(個別の授業改善)

FD推進委員会(2008)、全学FD委員会(2009)

学生はどんな授業をもとめているのか?

授業改善

学生は大学に、学生生活に何を求めているか?

学生の意識

本学の特徴は? 学部の特徴は?

大学の改善・方向性

客観的なデータで、
全学的な議論を

2010年度～ 全学FD委員会がすべての学生を対象に意識調査を実施

2013年度4年生(卒業年度)の調査実施

経年変化の分析・満足度の把握

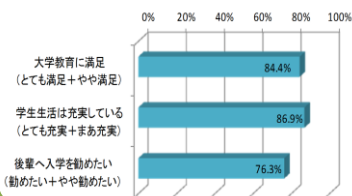
学生個人へのフィードバック

キャリアデザインへの支援

6 本学の活用事例（2012年度）

時期	場面・会議体	対象	データの着目ポイントなど
6月	ペアレンツウィークエンド	経済学部保護者	経済学部の学生がどのように成長しているか 学生生活でどのような力が身についているか
7月	学部パンフレット	経済学部	現代経済デザイン学科満足度
7月	報告会	文学部	比較芸術学科の特徴、併願受験先など
7月		教育人間科学部	充実度や満足度の高さとその背景について
7月		経済学部	英語への学びの意識の高さ
7月		経営学部	学びの環境面への満足度について
7月		法学部	推薦入試入学生の3年次の満足度について。カリキュラム改訂をする2013年度の変化予測。
7月		総合文化学部	推薦入試と一般入試の成長・満足度の差と背景
7月		国際政治経済学部	学びの意識や意欲の高さとその背景。カリキュラム満足度。
7月		理工学部	学科ごとの成長感、満足度の差。特に、学びへの目的意識と対人面の自信有無についてなど。
7月		社会情報学部	推薦入学生の特徴について/入学後、どのような分野に進みたいか
7月		執行部	各学部の学生が、入学から卒業までどのように成長し、どのような満足度で卒業していくのか。
10月		FD委員会	職員と教学部門との連携。就職支援の広報について、職員対応満足度の全国比較
10月		全職員	職員による学生支援の振り返り/各種施策の効果確認/職員が学生に与える印象や影響について
11月		入試アドバイザー	学生むけサービスとしての「自己発見レポートⅠⅡ」「キャリア・アプローチ」、満足度など
1月		進路・就職センター	不本意入学生の内定有無、満足度、各種就職支援施策の妥当性検証
-	オープンキャンパス	受験生、保護者	(国際政治経済学部) 学生の学部に対する期待、満足度など
11月	報告会	法人総合企画部	図書館建設に向けての学生の声、施設への満足度や要望、各学部の成長感とカリキュラム満足度の関
-	ポートフォリオ作成	社会情報学部学生	キャリアアプローチ個人結果票を活用した、自己分析、志望理由作成、エントリーシート作成対策
1月	自己点検	社会情報学部	※今後、認証評価に活用
6月	1年生のための 進路・就職講座	1年生 (4回実施)	講座目的『大学生生活の目標を持つ』『就職活動や将来活躍するために、どのような経験が必要かを考えるきっかけとする』
	2年生のための 進路・就職講座	2年生 (4回実施)	講座目的：『大学生生活を振り返り、成長をとらえ、大学生生活の目標を再設定する』『就職活動や将来活躍するために、どのような経験が必要かを考えるきっかけとする』
	3年生就職活動に向けた 自己理解講座	3年生 (3回実施)	講座目的：『就活とは何かを知る』『今何を準備しておけばよいか本気で考えるきっかけとなる』『自己PR作成をイメージできるようになる』
過去	企業向けパンフレット	社会情報学部	本学部生の特徴

大学教育・学生生活の満足度・充実度



教育支援

- 各学部学科におけるカリキュラム満足度
- 各学部学科における学生の成長、身につけた能力



学生支援(キャリアデザインの支援)

- キャリアアプローチ報告書による自己認識・自己評価
- 進路就職講座によるフィードバック(学生ポータル配信)



広報活動

- ペアレントウイークエンド(父母懇談会)、進路説明会等の資料
- 本学ホームページによる結果の公表



大学の方針(戦略)

- 大学、学部学科の特徴やその変化を客観的に認識
- 学長基本方針、学部学科の人材育成方針との整合性

■仙波憲一学長の基本方針は、「様々な分野や国境を問わず広い視野で物事を考え、常に新しい可能性を探究し学び続け、自分の個性や能力を高め、社会に対して積極的に発信していく」人物像を基本に、「高い倫理観と社会性を併せ持った人材を育成する」としています。

■今回の学生意識調査では、

入学した1年生が、勉学への関心と社会に役立つ知識、技能の修得に意欲をもち、また海外留学や語学学習に関して、高い意欲を示していることがわかりました。とくに海外留学への意識の高さが特徴的です。

2年生では、コミュニケーションスキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決能力などが1年間の授業の中で身についたと感じており、自己認識、対人積極性、社会理解、知的活動性などで成長感を感じています。

3年生になると、社会的強みとして、国際性、現実的態度、自主性、発信力などが、入学時から順調に伸びていると自覚しています。

そして、卒業時には、問題解決能力、論理的思考力、情報リテラシー、生涯学習力などを学生時代に身につけることができたと認識しています。

■このように、今回の学生意識調査の結果は、4年間の教育課程が一定程度、学生の成長に寄与していることを示すとともに、人材育成の方針に沿って、さらに教育課程の充実に力を注いでいく必要があることを示しています。

http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/survey_result.html

教育の特徴

- 全学共通教育
- すべての学生が「一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養」を身につけること

調査結果

- 多くの学生が、本学の国際性に期待感を持って入学
- 情報スキル等の基礎力が身についたと回答

今後の課題

- 基礎力を高める授業の充実
- 英語による授業の拡大
- 自校史教育の充実

教育支援

- 青山スタンダード教育の一層の充実・推進
- 学部学科の特性を生かせるような教育支援体制

学生支援

- 学生一人ひとりとのつながりを大切に
- 1年次の意欲を2年次以上につなげる支援を
- キャリア形成支援の充実

大学像・人材像の共有

FD・SD活動

- 教職員の共通意識の形成

広報活動

- 大学像、人材像の社会への発信
- 学生支援(キャリアデザイン)に向けてステークホルダーへの広報